再刊のごあいさつ

森田憲司

『13，14 世紀東アジア史料通信』を、再刊することといたしました。通算ですと、25 号になります。もともと同誌は、京都で開かれている「石刻史料を読む会」のメンバーがかかわる科学研究費の NEWSLETTER として、刊行していたもので、研究成果や活動の報告とともに、石刻史料にかかわる新着情報の紹介を柱にしていました。この数年間は科学研究費と縁が少なく、刊行をお休みしておりましたが、桜井智美氏を代表者とする科研費、JPS19K0140 の割愛を受け、復刊しました。

しかし、こちらの思いとは外れて、コロナ禍の影響で、情報誌としての作業が全く進捗しませんでした。大学に現職のある方でもそうなのでしょうが、まして退休してしまうと、コロナ以前には全く問題のなかった図書館の利用が不可能に近い状態になっております。新資料紹介などの作業は、自由接架のできる環境の確保がまず基本であり、かつ、簡単な手続きで外部からの利用に門戸が開かれている多くの図書館の存在が必要でありますが、これまではいくつもの機関のご高配で進めてこれました。しかし、最近は「外部者おことわり」とされる機関が多くお手上げの状態です。こうした問題については、日本美術史の佐藤康宏さんが、『UP』の 9 月号に書かれている内容が身につまされました（関連事項は、氏の連載の他の号にもあります)。まだの方は是非ご一読を。

ということで、今回は史料情報は掲載せず、桜井科研のメンバーである村岡倫氏からいただいた論文と拙稿とで、刊行させていただきます。

編集後記を兼ねましたので、長くなりました。こんなご時世になってしまって、この雑誌もこれからどうなるかわかりませんが、zoom 会議ばかりが研究ではないと思いますし、紙媒体には紙媒体の出番があると思っております。また、今後さらに所蔵状況の逼迫するであろう石刻関係文献の情報誌としての役割もあきらめてはおりませんので、今後とも皆さんのご協力をお願い申し上げます。もちろん、ご投稿についてもご相談ください。

（もりた　けんじ）